

夜間保育

平成19年
9月7日 発行

発行責任 全国夜間保育園連盟 会長 天久 薫
編集責任 大阪市東淀川区東淡路2-7-5 保育所あすなろ内
全国夜間保育園連盟 事務局長 枝本信一郎
電話 06-6321-3955 Eメール asunaro@rokoukan.or.jp

赤ちゃんポストと 夜間保育

全国夜間保育園連盟
会長 天久 薫

平成十九年五月十日、熊本市の慈恵病院は、『このとりのゆりかご』という名称で、様々な事情で子育てのできない親が乳児を託すことのできる赤ちゃんポストを、開設しました。病院側は「捨てられて命を落とす赤ちゃんや中絶せざるを得ない母親を救いたい」と説明しましたが、「親が産んだばかりのわが子を捨てるなんてとんでもない。病院が安易な子捨て、育児放棄を助長するな」との意見と、「見て見ぬふりをして子どもの命を危険にさらすな」との意見に分かれ、賛否両論といったところでした。

の差はあっても、同じ論議がなされました。当時、劣悪な環境のベビーホテルでの子どもの死亡事故が、全国で相次ぎました。夜間に預けようにも保育園そのものがなく、子どもたちだけで留守番をしていて、火事で兄弟とも焼死というケースもありました。「闇に漂う子どもたちをなんとか救いたい」との思いから、昭和五十六年、日本で初めて、認可の夜間保育園が誕生しました。しかし、一般社会から、そして保育関係者からも、「親が夜間に子どもを預けて働くなつてとんでもない。夜間保育園は育児放棄を助長するな」との非難もありました。以来

広報誌「夜間保育」の発行によせて

会長 天久 薫

の保育園が育児放棄助長施設となつてしまっています。今のところ、育児放棄は、子どもは母親が育てなければならぬという母性神話や三歳児神話の影響を受け、各人のそれぞれの思いで使われているのが実情のようです。

二十六年、今でこそ、夜間保育は、乳児保育や延長保育と同様、保育界の中でかなり認知されてきましたが、「育児放棄を助長するな」の意見には、まだまだ根強いものがあります。

この「育児放棄」にはどのような意味が込められているのでしょうか。「親が子どもをほったらかしにして、日常的に面倒みていない」の意味だけなら、全寮制の学校の子どもと養護施設の子どもは同じですか。子どもを養育するために働いているのに「子どもをほったらかしにして、働くなつてとんでもない」の意味なら、夜間保育園どころか、全国の全て

自己の思想でさえ、言葉化して把握していない。まして、相手の文化やその文化に基づく相手の生き方・考え方など、到底理解できない。従って、相互理解もできないし、相手は別の文化圏の者と割り切つて対等な立場で話し合うこともできない。自分が絶対に正しいと思ひ込み、自己を絶対化し、自分の理解できないものは受け容れない。相手が自分と同じ生き方・考え方をしないといつて、ただ怒り、軽蔑し、裏切られたと思つてしまい、相手を自分と同じ人間とは認めないのがある。

古代ローマの時代、ユリウス・カエサルは「人は自分の見たいものしか見ない」といつていますから、思い込みにより真実が見えないのは、日本人に限らず人類に共通の課題でしょう。しかし、狭い島国内で、目や肌の色も見た目もほぼ同じで、同じ言葉話す日本人は、生き方・考え方についても簡単に理解し合える部分も多く、日本への帰属意識が強いのも事実でしょう。しかも、主産業であった農業は共同作業を必要としたため、狭い村の中では、生き方・考え方が違うと、たちまち村八分でした。

故山本七平氏の言を素直に受け止め、育児について考えれば、今、私たちが大切にすべきことは、人はそれぞれ違うのだから、自分が絶対に正しいと思ひ込まず、母性神話、三歳児神話に惑わされず、自分の理解できないことであっても拒絶せず先ず受け容れ、相手のこと、相手の置かれている状況を正確に把握し、本来個別である個々の育児の第一義的責任

わが園の保護者交流プログラム 事例提供のお願い

毎日暑い日が続いています。陽が落ちて蝉が鳴いていますが、夜になるとどこからか鈴虫の声もきこえてくるようになります。

さて、全国夜間保育園連盟広報誌では、加盟園の紹介とともに、それぞれの園で取り組まれている「保護者交流プログラム」の取り組みの紹介を行っていきたく考えています。この件につきましては加盟園の園長先生方には「保護者交流プログラム事例アンケート協力のお願い」として、既にお願ひ文書が配布されています。

保育時間の長さは、子どもの健やかな成長発達に影響を及ぼすものではない、ということが明らかにされて7年が経ちました。これと同時に、子どもの健やかな成長には「子どもの発達に適した家庭でのかわり」や「保護者に相談相手がいるか」、「保護者が育児に自信を持っているか」、「保護者が育児に自信を持てる状況か」、といった保護者側の要因が影響していることも明らかにになり、保育園には保護者のサポートが重要な役割として求められることも再認識しました。

子育ての孤立化は、現代の子育てに関する問題のひとつです。子育ては、ひとりの大人が頑張ることで完成するような単純なものではなく、子どもも大人も、

たくさんの人と人とのかわりの中で行われることが、子育てを豊かにしていきます。それは、子どもの健やかな成長にとっても大切な要因であることも先の研究で明らかにされました。

毎年加盟園の皆さまにご協力をいただいで実施している調査では、相談相手に保育者や園長を選んだ割合は、夜間保育園を利用する保護者が昼間保育園の保護者より高い傾向にありました。加盟園の先生方が、日頃から保護者へのサポートを行っていただけることを、数値がしっかりと語ってくれています。

夜間保育園を利用する保護者にとつて、保育園はとても大切な子育ての基盤です。そこで出会う人は、相談相手になれる、保育園のスタッフ。そして同じ園を利用する保護者どうしもまた、子育ての場を共有する身近な存在です。普段の何気ない保護者同士のおしゃべりは、ストレス解消になるだけではなく、気さくなおしゃべりの中で、不安が解消されることも多々あります。保護者にとって、他の保護者とのつながりは、子育てを行う上で大きな力にもなるものです。

しかし、実際のところは、人との関係を持つことに保護者が困難を感じている、ということも少なくありません。また、夜間保育園を利用する忙しい日常を送り、送迎の時間帯も幅広いため、他の

保護者と顔を合わせる機会が少ない、という現状もあります。

保護者へのサポートとしての、子育ての仲間づくりである「保護者交流」の必要性は十分に感じているけれど、この現実の中で、実際にどんな方法で行えばいいのだろう、そんな悩みの声もあがっています。それぞれの園が、悩みを抱きながら、試行錯誤で取り組んでいるのが現状です。

ここで掲載しようと考えているのは、それぞれの園で行っている保護者交流プログラムのとりくみです。他園でのとりくみから、自園のとりくみへのヒントや、「ひらめきへのきっかけ」を見いだしていただけるのではないかと考えています。また、夜間保育園という特性を持つからこそ、共通する大切なことを、加盟園のみならず一緒に見つけることもできるのではないかと、そんな期待も抱いています。本誌・本コーナーが、みなさまのとりくみの一助になれば、と考えています。

第20回(平成19年度)

全国夜間保育園経験交流研修会のお知らせ

“全国の夜間保育園の職員が一堂に会し、夜間独自の悩みや思いを語り合い、明日からの保育に元気をもらおう”

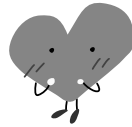
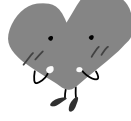
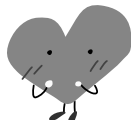
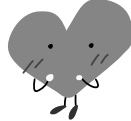
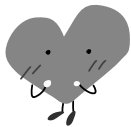
期日:平成20年1月19日(土)・20日(日)

場所:福岡市市民福祉プラザ(ふくふくプラザ)

を元に、本頁を作成して参ります。また、園の外観やとりくみの写真などがありましたら、可能な範囲でご提供いただけましたら幸いです。送付先、質問などは事務局・枝本までお願い致します。加盟園のみなさまのご協力、何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

長時間保育は 子どもの発達に悪いのか？

保育パワーアップ研究会委員



「夜間保育は子どもの発達に悪い影響を与えるのか？」—この問いに対する科学的な回答はどこにもありませんでした。

「長時間の母子分離は子どもの発達に悪い」とした「母性神話」への漠然とした不安が、長い間、質の高い夜間保育サービスを提供する機会を拡大することさえ阻んできた現状がありました。

その疑問に対して、1998年から1999年にかけて、夜間保育に取り組む全国32の認可保育所の園児約2900人、保護者約2000人を対象に「長時間保育が子どもに及ぼす影響について」の調査が行われました。

その結果、子どもの発達状況については、運動、知的、言語、社会性のいずれに昼間（午後7時00分までに降園する子ども）と目立った違いは見られませんでした。

この調査結果から、「認可保育園のよいうな質の高い保育園を利用すれば、夜間保育や長時間保育は子どもの発達に悪影響を及ぼすことはない、」ということが科学的に裏付けられたのです。

また、この調査から、子どもの発達を伸ばすには、家庭での子どもとの関わりが大切ということもわかってきました。

この点については、次回に詳しく報告いたします。

「1頁より続く」

者である親の決定権を尊重しながら、相手を認める具体的な妥当性(＝決して育児放棄とは言わせない証拠)を見出すこと、だと私は思います。

ところで、人間は、人種、言語、文化等が同じであっても、個人の能力、生育歴、価値観、現在置かれている状況等はまるで違ってきます。従って、日常のあらゆる場面で、「できる人」と「できない人」がでてきます。私はいくら目をこらしても、めがねなしには遠くを見ることはできませんし、足の不自由な人は、松葉杖や車椅子なしには歩くことができません。足の不自由な人から松葉杖を取り上げて「同じ人間だから歩けるでしょ」というのは、いじめであり虐待です。

育児、子育ても同じことです。育児にも内容によって「できる人」と「できない人」が存在します。社会が複雑化、多様化、高度化すれば、育児も保育ニーズも多様化し、できない人も多様化します。一方、自分の能力ではなく、置かれている厳しい環境が理由でできない人もいます。人はそれぞれ違うので、人間社会には、できる人もいればできない人もいます、それが当たり前です。できる人ができない人を助けるのも、できない人にセーフティネットがあるのも、当たり前のことです。そして、できない人が多様化すれば、その対応も多様化します。私は、夜間保育園は、子どもを乳児院・養護施設に預けないで親子と一緒に生活できるための最後の砦、だと思っています。乳児院・養護施設に子どもを預けるのが育児放棄というなら、夜間保育園は、育児放

棄を助長するのではなく、育児放棄を予防する施設です。

「育児放棄を助長するな」の主張によって、程度の差はあっても、夜間保育は赤ちゃんポストと同じ非難の目に曝されてきました。しかし「初めに子どもありき」です。放棄する「大人」に目を向けるのではなく、放棄される「子ども」に先ず目を向けるのが、児童福祉の観点ではないでしょうか。

議論する以前に、「目の前の夜間の子どもたちをどうするか」に始まり、夜間の子どもたちを「見てしまつて、避けて通れなくなつてしまつた」私たちが夜間保育の関係者は、自分の見たいものしか見ない人々に、真実を伝える仕事も担っているのです。全国の夜間保育園で働く皆さんには、「自分の園の夜間保育を確立することで、日本の保育の考え方を変える」、そんな気概で、日々の保育に取り組んでいただきたいと思います。



保育士パワーアップ講座

「長時間保育のための基礎講座(初任者向け)」のご案内

保育をめぐるニーズの多様化とともに

に、長時間保育への要望はますます高まっています。長時間保育を必要とする子どもの最善の利益を守るためには、どのような保育環境を準備する必要があるのでしょうか。

全国夜間保育園連盟(全国夜間保育園連盟ワーキング委員会)では、9年間にわたる子どもの発達の追跡調査を踏まえ、長時間保育の質をさらに高め、子どもにとって望ましい保育環境の充実を目指したマニュアルを開発しています。

また、近年子どもが育つ環境が相変わらず厳しい状況の中で、児童虐待・発達障害・生活習慣の乱れ、アレルギー等、子どもたちの発達過程にかかわる「気になる子」が年々増えている傾向が感じられます。そこで、その気になる子ども「気づき」や「支援のポイント」についても調査研究を積み重ねてきました。

本研修は、長時間保育に携わっておられる方、気になる子どもへの対応に苦慮されている方、そして、保育士をめざす学生の方にも、これらをわかりやすく提供し、保育を必要とするすべての子どもたちの健やかな育ちの保障と保育に携わる専門職の資質向上に資することを目的として開催します。

日時及び場所

※第一回福岡会場と第二回東京会場の内容は同じです。

◇第一回(福岡)

日時：平成十九年十一月九日(日)

午前十時～午後四時三十分

場所：福岡市市民福祉プラザ

Tel 092 (731) 2929

締め切り日

●平成十九年十一月二十二日

◇第二回(東京)

日時：平成二十年二月十七日

午前十時～午後四時三十分

場所：品川区立中小企業センター

Tel 03 (3787) 3041

締め切り日

●平成二十年二月一日

3. 対象

園長、主任保育士、保育士、看護師、調理員、保育士養成校職員、学生、行政職等

4. 参加募集人数：100名

5. 参加費：3,000円

(当日徴収・テキスト代含む)